

## 「加賀立国 1200 年」を契機とした地域の歴史PRと学びの場創出

指導教員 金沢学院大学 准教授 戸根比呂子

参加学生	大学院	馬木竜矢				
	4年	織田惟吹	神村勇翔	小倉譲	小林光成	小林大晃
		高柴ひかる	滝澤広大	中島美優	中野芽楓	法土莉子
		松田亜斗夢				
	3年	犬丸琴絵	木湯真菜	佐藤美空	田村豪大	藤原慶
		松田真彩	宮原伽奈			
	2年	大野理桜	白江瑞希	村井康晟	山崎美鳴	

活動にご参加、ご協力くださいました、

「南加賀遺跡魅力発信委員会」

のみなさまに感謝申し上げます。

こふんカードは現地にて継続配布中のほか、  
今年度の新企画「バズリ賞」も現在実施中です。

×で「#南加賀こふんカード」の記事投稿、  
「#南加賀こふんカード」記事への「いいね」に  
みなさんもお参加ください！



▲ここから×にアクセス！

# 「加賀立国1200年」を契機とした地域の歴史PRと学びの場創出

(金沢学院大学戸根ゼミ 連携団体：小松市)



## 活動目的

小松市では古代加賀立国1200年となる2023年を機に、能美市とともに、関連する歴史文化の普及啓発を進めてきた。地域住民も、「加賀立国1200年遺跡魅力発信委員会」を結成し、地域の歴史をPRするための活動を行ってきた。

そこで金沢学院大学の考古ゼミも活動に参加することで、地域の歴史をより積極的に発信していくことになった。特に、加賀立国の前時代にあたる古墳時代に注目し、小松・能美に広がる一大古墳群を、古代のにぎわいの場を育んだ遺跡と捉え、古墳群を中心に活動を行うこととした。2025年度は事業最終年度となるが、「南加賀こぶんカード集め」のカード追加と新企画の提案、河田山9号墳の発掘調査継続により、今後の展開も見据えて事業を実施した。

## 活動①

### 南加賀こぶんカード集めの実施

今年度は、「南加賀こぶんカード集め」は、新たなカード2種を加え、さらに古墳の周知を進めるための新企画として「古墳deバズり賞」も開始した。

「南加賀こぶんカード集め」第2弾は、10月20日より配布を開始した。カードは、埴田後山無常堂古墳と和田山5号墳の2種を追加し、12月末までに計約80枚を配布することができた。

「古墳deバズり賞」は、「#南加賀こぶんカード」を入れてXに投稿すると、いいね数や閲覧数に応じて特典を贈呈するという企画である。参加者が一体となって古墳の周知にも参加できるという仕組みで、1月17日より試行中である。



第1図 2025年度版のチラシ

**Aランク**  
いいね数50 or 閲覧数500  
⇒ ミニ銅鏡鑄造体験

**Bランク**  
いいね数20 or 閲覧数200  
⇒ こぶんカード型クリアファイル

第2図 「古墳deバズり賞」の特典

## 活動②

### 河田山9号墳の発掘調査

2025年の調査は7日間行った。昨年度の調査(第2トレンチ)では東側周溝が判然としなかった。そこで、調査地点を変えて(第3トレンチ)9号墳の東側の周溝を再確認し、墳丘規模を明らかにすることを目的とした。

調査の結果、北側の周溝と思われる溝を一部確認した。1980年代に調査した周溝との位置関係や連続性を確認することができた。しかし、これに続く東側周溝は依然として判然としなかったため、今後、さらなる調査が必要である。



第3図 発掘調査の様子

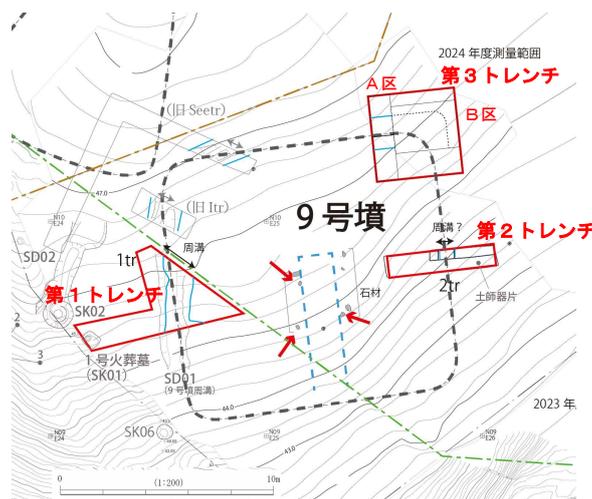


第4図 土層断面を図化している様子



第5図 現地説明会の様子

なお、今年度も、調査に地元住民による南加賀遺跡魅力発信委員会のメンバーも参加し、学生と住民の協働による調査となった。また、調査成果の現地説明会には約40名が参加し、古墳の周知につなげることができた。



第6図 河田山9号墳の調査成果

## まとめ

4年間の活動を通して、古墳の調査と魅力発信に取り組むことができた。どちらも簡単に成果が出るものではないが、地道に継続することで、古墳活用の輪が広がっていきそうな期待もある。これからも、専門性を活かしつつ、地域に役立てるような取り組みを続けていきたい。

### 【参加学生】計23名

馬木竜矢(大学院2年生)・織田惟吹・神村勇翔・小倉譲・小林光成・小林大晃・高柴ひかる・瀧澤広大・中島美優・中野芽楓・法土莉子・松田亜斗夢(以上4年生)・犬丸琴絵・木湯真菜・佐藤美空・田村豪大・藤原慶・松田真彩・宮原伽奈(以上3年生)・大野理桜・白江瑞希・村井康晟・山崎美鳴(以上2年生)

## 1. 活動の要約

本事業では小松市・能美市に所在する古墳を題材に、地域の歴史PRのための活動を行った。「南加賀こふんカード集め」は、新たなカード2種を加え、さらに「バズリ賞」による古墳の周知を進めた。また、小松市指定史跡である河田山9号墳の発掘調査を実施し、加賀国府の地盤となった河田山古墳群の基礎データを作成した。成果は現地説明会で報告したほか、ゼミのX等を通じて情報発信した。

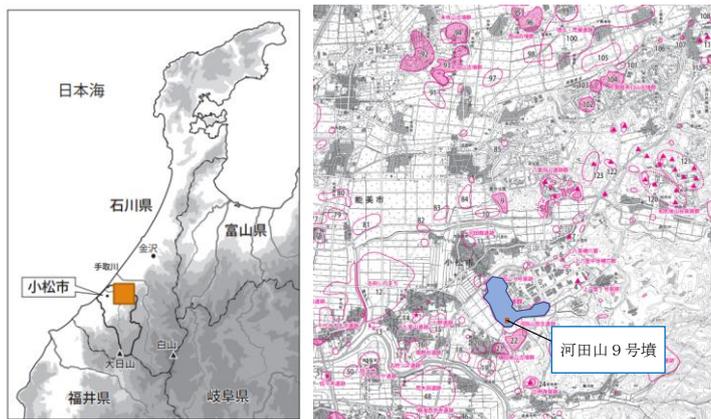


図1 主な活動場所

## 2. 活動の目的

小松市では加賀立国1200年となる2023年を機に、能美市とともに、関連する歴史文化の普及啓発を進めてきた。そして地域住民からも協力を得て、現「南加賀遺跡魅力発信委員会」を結成し、地域の歴史をPRするための活動を行ってきた。そこに金沢学院大学の考古学ゼミも参加し、地域の歴史をより積極的に発信することとなった。特に加賀立国の前時代にあたる古墳時代に注目し、小松・能美に広がる一大古墳群を古代のにぎわいの場を育んだ地と捉え、古墳群を中心に活動を行った。

## 3. 活動の内容

### ①「南加賀こふんカード集め」の継続・改善策提案（5～12月）

まず、今年度のメンバーで古墳の下調べ（5～6月）や現地視察（5/24）を行った。続いてグループに分かれ、追加カードの対象古墳選定や改善策の検討を進め（6～7月）、小松市・能美市職員同席のもと、発表会を行った（7/17）。

追加カードの対象古墳は、現地視察の結果、駐車場や園路が未整備であったり（御幸塚古墳、矢田新丸山古墳、河田向山1号墳）、古墳が原形を留めていなかったり（ブッシュウジヤマ古墳）することがわかり、今後、古墳活用にあたって解決すべき問題も浮き彫りとなった。特に現地整備は時間を要するため、「こふんカード集め」ではまず古墳へ興味を持ってもらうことを優先し、加賀国府ものがたり館で展示している埴田後山無常堂古墳の甲冑を撮影することでカードを配布することとした。

改善策としては、英語版チラシの作成、「古墳カード冊子」の配布、SNS連動キャンペーンの実施（押し古墳を紹介する・してもらう）、カードを集めた人へ景品（クリアファイル）やAR閲覧権の贈呈、という案があがった。これを踏まえ、今年度はSNS連動キャンペーンとして、古墳や古墳カードの周知に協力してくれた人へ景品を贈呈する「バズリ賞」を試行することとした。

なお、カードとチラシは、今後の継続も見通して、南加賀遺跡魅力発信委員会にて印刷費を負担し、さらに昨年度分の配布を完了（500枚）した「矢田野エジリ古墳」カードを増刷していただいた。

### ②河田山9号墳の発掘調査の実施（10～11月）

昨年度の調査では、東側周溝が判然としなかったことから、今年度は調査地点を変えて、古墳の東側周溝を確認し、墳丘規模を明らかにすることを目的に調査を実施した。発掘調査は考古学の学びを活かしたフィールドワークとして、学生と小松市職員のほか、南加賀遺跡魅力発信委員会のメンバーも加わり、学生と住民の協働による調査を継続できた（10/19、11/2・9・13・16・24・30）。

調査に際し、小松市より、地域住民・関連部局（文化振興課・緑花公園課）との連絡調整、休憩や道具置場の提供（加賀国府ものがたり館、手洗いあり）、関連遺跡報告書・測量データの提供等を得た。

### ③活動を通じた古墳群の周知（随時）

活動状況は、ゼミのSNS（X：旧Twitter）、本学学園祭のパネル展示のほか、随時、新聞報道等に取り上げてもらい、古墳群の周知へとつなげた。

#### 4. 活動の成果

##### ①「南加賀こふんカード集め」第2弾（10/20～）と新企画「バズリ賞」開始（12/25～）

こふんカード関連では、新規にカード2種を追加し、第2弾を開始した。前週10/11・12には学園祭で、チラシ配布・パネル展示や「出張！南加賀こふんカード」で周知した。第2弾カードの配布初日10/20は、能美ふるさとミュージアムの「古墳まつり」会場で、学生自らカードを配布した。以降は、小松市加賀国府ものがたり館（埴田後山無常堂古墳：約60枚配布）、能美ふるさとミュージアム（和田山5号墳：約20枚配布）にてカードを配布していただいている。

また、改善策・新企画として「バズリ賞」も試行中である（12/25～）。こふんカード集めの参加者がXに関連記事を投稿すると、「20 いいね又は200 閲覧」で特製クリアファイル、「50 いいね又は500 閲覧」で鏡の鋳造体験が贈呈される。こふんカードを集めるだけでなく、Xへの投稿や景品贈呈により、参加者が古墳の周知に協力している実感を持てる企画となった。

##### ②河田山9号墳の発掘調査

発掘調査により、北側周溝の一部を確認し、1980年代に調査した周溝との位置関係や連続性を明らかにできた。一方、これに続く東側周溝は判然とせず、今後、さらなる調査や検討が必要である。ただし、今年度も速報性の高い現地説明会の開催（11/16）により近隣住民を中心に約40名もの人に足を運んでもらう機会となったほか、将来における活用や整備につながる成果も得ることができた。

##### ③活動を通じた古墳群の周知

以上の取り組みは、新聞でも取り上げてもらい（2社）、地域の活動として周知できた。一昨年度より始めたX（旧Twitter）も、継続的に情報発信することで、周知に役立てることができた。

#### 5. 今後の活動計画

4カ年計画とした本事業も、今年度で最終年度を迎えた。当初は、河田向山古墳群や河田山古墳群の現地調査を地域住民とともに実施することで、古墳の周知や活用策の提案ができれば、と考えて事業に応募した。活動を進める中で、古墳の活用策を具体的に実行できればと思い至り、小松市・能美市のみなさんから多大なるご協力をいただくことで、実現することができた。

しかしながら、何とか枠組みを作った段階で、最終年度を迎えてしまった感も否めない。

古墳の現地調査は考古学実習の場として、得難い経験をさせていただいた。近年では実現が難しい、住民との協働という機会も作ることもできた。一方、学生には人生初の遺跡調査であり、思うように成果が得られなかった。今しばらく小松市の皆様にご協力いただき、調査を継続していきたい。

南加賀こふんカードは1年間で配布を完了した古墳もある一方、課題も見えてきた。現地整備など行政として対応を判断していくものもあるが、「バズリ賞」のような学生目線のソフト事業など、地道に努力できることも多く残されている。今回の事業の延長で、是非、できることを行っていきたい。

#### 6. 活動に対する地域からの評価

本事業を開始した令和4年度はまだコロナ禍の只中にあり、さまざまな活動に制限がある時期でした。また、小松市と能美市で結成した遺跡を軸とした魅力発信委員会にも行き詰まりが生じていました。そのような状況下で、大学生主体の新たな挑戦や工夫は大変心強く、今では委員会の中心的活動となっています。

具体的な活動としては、古墳の調査と魅力発信という2つに取り組んでもらいました。前者では、未調査古墳を対象とした測量や発掘などを市民との連携で実施することで、新たな学びの場をつくることができました。後者では、古墳調査の成果を学生主体で発信するとともに、活用策の提案やアンケート調査を経て古墳PRのためのカード集め企画を実現してくれました。これらの結果、コア層からライト層までさまざまな興味関心をもった市民と関係をもつことができたと感じています。今後もゼミと協力し、取り組みを継続・発展させていきたいです。よろしくお願いいたします。